

第 32 回 神奈川県がん診療連携協議会 議事録

日時： 令和 6 年 3 月 11 日(火) 17:00~18:45
場所： 神奈川県立がんセンター 管理・研究棟 5 階 講堂
形式： 集合形式
出席者： 77 名(出席者名簿 別添)

1. 開会

・酒井協議会長より、開会の宣言及び当協議会の組織（部会含む）の現状・今年度の活動の概要について説明された。

2. 議題

(1)神奈川県がん・疾病対策課連絡事項<下山田神奈川県がん・疾病対策課長>

・以下 5 点の情報提供があった。

① 神奈川県がん対策推進計画の改定について

・現在の計画の期間が令和 6 年 3 月末のため、次期計画について令和 5 年 12 月から令和 6 年 1 月にかけてパブリックコメントを募集し、皆様からいただいた意見を反映した改定計画案を作成した。
・3 月中に改定計画を決定し、本年 4 月から新しく 6 年間の計画を開始する。決定した改定計画は、皆様へ情報提供する。

② 治験情報の発信

・がんの情報を広く県民に発信するため、製薬会社の協力を得て県で作成している「がんサポートハンドブック」（令和 6 年 5 月頃改定）と県の HP で、県内の医療機関で実施している治験・臨床試験の情報を検索する方法を掲載する予定。

③ 防がんMAPの作成

・防がんMAPの神奈川県版を 3 月中の完成を目指している。
・リンク先は、国がんの情報、県の HP、医師会や学会の HP 等、公的な HP に飛べるようにリンク先を作成中。
・QR コードを読み込むとトップページに飛べて、そこでさまざまなコメントをヒントに各情報に飛ぶことのできるしくみを作っているところ。
・将来的には、防がんマップを各拠点病院・指定病院の窓口において、がん相談支援センターで患者に配布したい。作成後の利用方法についての検討には、皆様のご協力をお願いする。

④がん教育

・昨年より、県と製薬会社が連携し、医療従事者向けのがん教育外部講師養成講座を年に 2 回（同じ内容）、実施した。

- ・この講座にて外部講師になってもいいという方をリストアップした。拠点病院6名（医師1名、看護師4名、その他1名）、指定病院7名（医師5名、看護師1名、その他1名）。
- ・教育委員会からの医療従事者の派遣要請があれば、このリストから候補者をあげ調整することになっている。今年度は初めて、看護師の要請があり、派遣した。
- ・授業は平日の昼間なので、派遣には施設の許可が必要。がん教育は拠点病院の要件でもあるので協力をお願いしたい。

⑤ピアサポーター養成研修会

- ・3月9日(土)、10日(日)に神奈川県ピアサポーター養成研修会を開催した。
- ・日本サイコオンコロジー学会、県がん連の協力を得て、かながわ健康財団と共催して開催した。
- ・2日間出席した人を県がピアサポーターとして認定する。
- ・その他、県がん連のプログラムで研修を受けた人、長期間ピアサポーターの相談をしていた人も、県のピアサポーターとして認定する。
- ・ピアサポーターとして認定されたかといってすぐに活動するのはむずかしいので、来年度はフォローアップ研修会も実施する予定。また、ピアサポーターの活躍の場を広げるために、拠点・指定病院の協力をお願いする。

○「ピアサポートにおける行政や医療機関の役割」北里大学 佐々木先生

- ・佐々木先生は、令和4年度厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業の改訂委員会の構成員。
- ・ピアサポートとは、同じ状況、同じ問題を抱える者同士がお互いの体験を共有し情緒的なサポートを行い、知識・情報を得るということ。
- ・ピアサポーターは、自らの体験を他者に生かせる形で提供し、利用者である患者家族の情緒的なサポートとリテラシー、知識の向上に貢献する。
- ・ピアサポーターは相談支援ではない。医療の内容には踏み込まないということを徹底している。
- ・活動形態としては、患者・家族が実施する患者会のようなセルフヘルプグループと医療者と共同で実施するがんサロンのようなサポートグループがある。個別の対応では、1対1、あるいは1対2で2はピアサポート側。神奈川県は先進的で、個別の対応も行われているところがある。
- ・ピアサポーターには傾聴と体験を話す力、情報を活かす力が必要である。
- ・平成30年に47都道府県にピアサポート取組調査が実施され、課題が数々挙がった。指摘事項の一つであった「がん対策推進基本計画の中に明確に記載する必要がある」を受けて、同計画に本件が反映された。
- ・行政と医療者の連携、マネジメント、教育・研修体制の整備も課題である。
- ・神奈川県と東京都以外の関東の都道府県では定期的に研修を行っている。

- ・県が予算を取ってピアサポーターを派遣し、がんサロンをパッケージごと開催するモデルとしては、千葉県があるので参考にしたい

(2)各部会からの報告

① がん薬物療法部会の報告<酒井部会長>

- ・本年は1回のみ開催。その時は、外来化学療法に関わるセルフチェックシートの事前アンケートを実施し、その結果を元にグループワークを実施した。詳細は議事録を参照されたい。
- ・2回目は、1回目に挙げたテーマを元に PDCA サイクルを回したいテーマについてグループワークを行う予定だったが、開催できなかつたため次年度以降の課題とする。

② 相談支援部会の報告<得部会長>

- ・相談支援部会は、令和4年に新整備指針が発出され、話し合う内容が多かつたため例年は2回のところ、3回実施した。
 - ・第2回会議では、新整備指針の発出にともない、次の2つの内容について意見交換を行った。
- 1) 外来初診時から治療開始をめぐりがん患者とその家族が必ず1度はがん相談支援センターを訪問することのできる体制整備について
 - ・現在は都道府県がん診療連携拠点病院のみが必須要件だが5年後には国指定の拠点病院の必須要件になると言われている。
 - 2) がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制の整備をすること
 - ・既に先行して取り組んでいる施設もあるが、施設単位でこの取組を行うことは難しいという意見もあつたので、共有のアンケートを作成し、部会として取り組むことに合意を得た。
 - ・第3回は議事録を参照。次のとおり各WGの活動報告を行った。
 - ・本年度は6つのWGでかなり活発な動きがあつた。
 - ・教育企画WGでは4回の相談員研修会を実施。
 - ・ピアサポートWGでは、アンケートを実施し、神奈川県内のピアサポートの現状と患者サロンの現状を把握し、神奈川県のHPに掲載されている患者サロン一覧表の更新に向けて準備中である。
 - ・広報のWGでは、がん相談支援センターの動画に音声を入れたものが完成した。神奈川県のYouTubeとHPに掲載予定。各施設のHPにリンクを貼り、院内で動画を流せるようにデータを共有する予定。
 - ・情報支援ツールWGでは、昨年作成した緩和ケア病棟一覧の相談員の手持ち資料を更新し、一部の情報を神奈川県のHPとがんサポートハンドブックに掲載するよう準備

中。

- ・就労支援 WG 産業保健総合支援センターと連携し、両立支援を推進することが求められているので、1年間、スムーズな連携に向けて、話し合い、意見交換を実施した。
- ・PDCAWG では相談員研修会の中で、他施設の状況を共有し自施設の評価を見直すという意見交換を行った。
- ・地域単位での活動では、相模原市と川崎市の病院が地域でのがん相談の啓発活動を実施している。
- ・東京、神奈川、千葉、埼玉の4都府県が合同して毎年1回地域相談支援フォーラムを開催している。今年度は11月に千葉県主体で実施した。来年度は神奈川県のがん相談支援部会が主催する。教育企画担当の相談員が中心となり企画運営を行うので協力をお願いする。
- ・相談者からのフィードバックおよび体制の整備については現在各施設のデータをとりまとめ集計中で次回の相談支援部会で共有する。
- ・地域におけるがん相談の啓発活動については、行政と連携し相談員が所属施設以外の場所でセミナーやイベント開催または出席するという活発な活動に広がった。これらの活動は拠点病院として求められているものがあるが、所属施設を離れての活動については、各施設のご理解ご支援をお願いする。
- ・自施設以外で行う活動について、施設の協力を得るために、部会からの依頼書の発行要望があり、協議会として検討してもらいたい。⇒酒井協議会長より、この公文書の発行について、出席者に諮り、承認された。
- ・がんセンターのみに導入されている「施設別がん登録件数検索システム」では、施設単位の症例件数を検索できるので、患者との相談対応に活用してほしい。

③ 院内がん登録部会の報告<小池部会長>

- ・第1回部会(令和5年7月21日開催)では、がん登録の後期研修会及び都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会についての報告とがん登録データの活用方法について協議した。
- ・第2回部会は令和6年2月22日に開催した。当部会では令和5年度に部会を2回、研修会を2回開催した。来年度も部会、研修会ともに例年とおりの2回ずつ開催予定。開催形式は、コロナ禍以降はずっとWEB開催だったが、部会員から参集型の希望があるので、1回は参集型で開催予定。
- ・来年度の研修会については、施設別のデータ公開について、全体としての研修を来年度は検討する。それ以外はと例年とおりの臓器別研修会を実施予定。
- ・PDCAサイクルの目標についてはいつも議題に上がるが、データの公開しかない。すでに全国集計のデータは、県のHPの2か所に公開している。これまでは部位別の件数しか出していなかったが、部位別、治療法別にデータを公開してはどうかとの意見が

あり、公開することにした。

- ・要望のあった施設別部位別詳細データについて、胃がん、肝臓がん、大腸がん、肺がん、乳がんの5部位のみ集計した。このデータ自体はすでに国がんで公開されており、それをグラフ化しているだけである。
- ・さらに病院ごとに手術の内訳表のグラフを作成した。どの病院でどの手術がどのくらい実施されているかは、患者が非常に気になる点で、相談支援にも問合せが多いので、外科手術とその内訳の開創手術、鏡視下手術については公開したいと考えている。公開は神奈川県 HP で、公開方法については県と度相談する。
- ・今は、胃がん、肝臓がん、大腸がん、肺がん、乳がんの5部位のみの集計だが、HP掲載の時には、前立腺がん、子宮頸がん等も同様のグラフを作成し掲載することを部会では了承済。
- ・今日の資料は白黒だが、カラー印刷したものを各施設のがん登録担当者には配布しているので見てほしい。
- ・10 症例未満の表記について
 - 一・国立がんセンターからは10 症例以下は掲載しないようにと言われているが、部会で各施設から、特に手術の内訳に関しては、掲載した方がいいという意見だったので、掲載しているが、各施設で上層部に確認してほしい。施設ごとの選択も可能だが、掲載を希望しなかった施設に関しては「ゼロ表示」との注釈を付けることになる。
 - 一・10 症例以下の公開については施設に持ち帰って検討してもらうことにする。後日アンケートにて回答をしていただく。質問等があれば小池部会長でも協議会事務局の大川にでもいいので連絡してほしい。

④ 緩和ケア部会の報告<太田部会長>

- ・第2回は、令和6年1月15日に、参集型で開催した。
- ・神奈川県が策定したがん対策推進計画の緩和ケアに関する部分の説明があり、それに対して質疑応答を行い、特に緩和ケア研修会修了後のフォローアップについては議論が白熱した。緩和ケア研修会では、医師の受講者が減少していることで各施設苦勞しており、共催についての質疑応答があった。
- ・「緩和ケアの提供体制の充実」の中に ACP のことが記載されているため、緩和ケアに係るスタッフのみが努めるべきことのように誤解されるのではとの意見があった。
- ・緩和ケアの人材育成については県予算の問題があるが、県が協定を結ぶ企業の協力を得ることを検討できると回答があった。
- ・国が開催する都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会の報告をした。
- ・第4期がん対策推進基本計画に基づき、問題点等を見える化するための事前アンケートを実施し、報告した。アンケート結果については、各施設の緩和ケア担当者に送付しているので参照してほしい。

- ・アンケート内の緩和ケア診療継続体制に関する質問では、緩和ケア担当医が1人のために苦勞していること、約 1/3 の施設で診療の継続に関する議論がされていないとの回答であった。
- ・緩和ケア部会は来年度も対面で実施する予定。部会の役割としては、各病院が PDCA サイクルを回すことを支援すると同時に、神奈川県全体の緩和医療・ケアのポテンシャルを維持し、質の担保を図ることが PDCA だと考えている。

⑤ PDCA サイクル推進部会の報告<酒井部会長>

- ・この部会では、各部会での PDCA サイクルをどのように回していくかを各部会長が話し合っている。
- ・今後は、神奈川県がん診療連携協議会としての PDCA についても、この PDCA サイクル推進部会で討議していきたいと考えている。

(3)アンケート結果報告<酒井会長>

- ・国の第4期がん対策推進計画の三つの柱のうち、協議会では、「がん医療」「がんとの共生」、さらに三つの柱を支える「基盤」がキーワードになると思われる。
- ・がんとの共生では、小児、AYA 世代、高齢者などライフスタイルに応じた支援があり、全ての患者や医療従事者が正しい情報にアクセスできる基盤が重要である。
- ・今回の協議会開催にあたり、第4期がん対策推進計画に基づき、神奈川県状況を把握するために、各施設に次の7項目の事前アンケートを実施した。

①オンラインによるセカンドオピニオン外来の体制

- ・実施しているところは3施設(国指定)のみ。

②AYA 支援チームの設置

- ・設置しているところは7施設(国指定)のみ。

③高齢者がん患者に対する高齢者総合機能評価を行う体制

- ・国指定は体制がある施設の方が多いが、県指定はない施設の方が多い。

④上記結果に基づく、高齢者がん患者のサポート体制

- ・③と同様の結果。国指定は体制がある施設の方が多いが、県指定はない施設の方が多い。体制が作られている施設は何らかのサポート体制がある。

⑤感染症蔓延や災害時における、がん医療にかかわる事業継続計画の策定

- ・がんだけを切り離すことはむずかしいので、全般にわたって行っているかどうかの回答である。
- ・BCP が策定されている施設は半数に満たなかった。
- ・国指定では、今後要件になる予定。

⑥来院した全てののがん患者と家族にがん相談支援センターの存在を知ってもらう体制

- ・ほとんどの施設で体制を作っている。

⑦院内外の患者会や患者サロンなどのがん患者団体と連携する体制

- ・ほとんどの施設に体制がある。

<自由記載を踏まえて>

- ・AYA 世代がん患者の数は多くないので、支援チーム体制整備に加え、協議会内の治療施設の集約は今後の課題と思われる。
- ・BCP については、がんに特化した BCP には着手できない病院が多い。
- ・国の協議会でがん医療に係る BCP のベースを作成してもらって、各施設に合わせて活用できないかとの意見もあった。
- ・相談支援センターの存在を知ってもらうことについては、パンフレットの配布や HP での告知が多いが、全ての患者に知ってもらうことにつながるかは検証が必要である。

(4)その他

- ・次の2点について酒井協議会長より提案され、承認された。
 - ①神奈川県がん診療連携協議会の構成メンバーについて
 - ・小児がん拠点病院のこども医療センターに、あらたに当協議会のメンバーに加わってもらうことについて、満場一致で承認された。
 - ②ピアサポーター養成研修について
 - ・当協議会の中に、「(仮称)ピアサポート促進検討会議」を設置し、神奈川県におけるピアサポート促進に関わることを所掌することについて、承認された。

3. 閉会

- ・得相談支援部会長より、今年度で部会長を退くにあって挨拶があった。
- ・高橋神奈川県歯科医師会常務理事より、12月に歯科医師会でがん診療連携の講習会が開催されたことが報告された。
- ・下山田神奈川県がん・疾病対策課長より、県として引き続き連携して情報提供や BCP を進めていきたい旨挨拶された。
- ・岡本副会長より、各施設のがんの統計他、本日の有用な議論の内容を各施設に持ち帰って議論してもらいたい旨、挨拶があった。
- ・次回会議は令和6年7月29日(月)の予定。